

会 報

平成12年度第2回日本公衆衛生学会理事会議事 要旨

- I 日 時 平成12年7月28日(金)13:00~17:00
 II 場 所 ルポール麹町 3階 アメジスト
 III 出席者 学会長 鈴木庄亮
 理事長 多田羅浩三
 理 事 相澤好治 阿彦忠之
 岩尾總一郎 小倉敬一
 金川克子 北川定謙
 木根洵英雄 小林廉毅
 小林秀資 近藤健文
 佐柳 進 嶋本 喬
 伊達ちぐさ 中川秀昭
 二塚 信 三浦宜彦
 宮武光吉 (19名)

監 事 古市圭治 平山朝子 (2名)

委任状提出者

- 副会長 家崎 智 大平良治
 林 弘二
 理 事 後藤 武 田中平三
 角田文男 鳥山 皓
 能勢隆之 松田 朗
 (9名)

オブザーバー

- 次期学会長 實成文彦 (香川医科大学人間
 環境医学講座衛生学
 公衆衛生学教授)
 平野かよ子 (国立公衆衛生院
 公衆衛生看護学部長)
 前田光哉 (厚生省大臣官房政
 策課課長補佐)
 朝比奈浄真 (群馬県保健福祉
 部保健予防課課長補佐)

現在理事数28人, 出席者19人, 委任状提出者9人。

学会規定第13条第1項による定数に達したので, 多田羅理事長が議長となり開会を宣した。議事に先立ち多田羅浩三理事長から挨拶があった。

議事録署名人名人選出

議事録署名人名人に, 二塚 信, 金川克子両理事が

指名された。

議 事

第1号議案 第59回(平成12年度)日本公衆衛生 学会総会について

鈴木庄亮学会長から学会機関誌47巻7号に掲載の資料等に基づき次のとおり説明があった。

- 演題の申し込みは1269題あり, ここ数年の演題数より増加した。
- 公開講演を予定している。
- 一般口演はすべて示説発表としたことから今学会総会に限って, 「優秀ポスター賞」を設けることとした。
- 自由集会は9集会増えて35となった。
- お昼休みの時間帯には群馬交響楽団による弦楽四重奏, 前橋八木節協会の八木節の演奏がある。

説明後, 本議案は了承された。

第2号議案 第60回(平成13年度)日本公衆衛生 学会総会について

實成文彦次期学会長から説明

- 実行委員会は59回総会終了後に設置する予定である。
- 60回総会は「21世紀の社会と公衆衛生」をテーマに学会長講演, 特別講演2題, シンポジウム5題, 教育講演5~6題, 奨励賞受賞者講演等を計画しており, 60回記念行事については59回総会終了後, 学会評議員の意識調査を行い, それを参考に計画を策定することとしたい。
- 一般発表としては口演400~600題, 示説800題を予定している。

地域における健康危機管理, 遺伝子組み換え, 感染症対策などについても取り上げてほしいとの要望があり, これらについてはシンポジウム等で対応したいとの回答があった。

以上により, 本議案は了承された。

第3号議案 第61回(平成14年度)日本公衆衛生 学会総会について

北川定謙理事から前回の理事会で61回総会を埼玉県で引き受けることとなったが, その後埼玉県立大学, 県庁の関係者と開催日時と開催場所, 準備のタイムスケジュール等について打ち合わせた旨説明があった。

以上により、本議案は了承された。

第4号議案 平成11年度事業報告および収支決算(案)について

近藤健文庶務担当理事から平成11年度事業報告について資料に基づき説明があった。

宮武光吉会計担当理事から平成11年度収支決算について資料に基づき説明があった。

- 収入は予算額より4,888,000円増えているが、会員管理の改善等により前年度の会費未納者は今後減っていくと思われる。
- 奨励事業費が少なかったのは選考委員会が役員選挙の会議と同日に行ったため、旅費等の支出が少なかったが、今後の奨励事業のあり方を検討しても良いかと思われる。
- 選挙関係費が大幅に下回った理由は選挙登録が1,882名と少なかったことによる。
- 次期繰越収支差額7,939,380円は、平成12年度に全額繰り越すこととする。

審議の後、古市圭治、平山朝子監事から適正に管理運営されているとの監査報告が行われ、本件については評議員会に諮り、総会に報告することとした。

第5号議案 平成12年度収支補正予算(案)について

宮武会計担当理事から平成11年度収支計算(案)において次期繰越収支差額7,939,380円を全額平成12年度へ繰り越すことにしたため平成12年度収支補正予算書を作成することとし、全額13年度へ繰越し、同年度以降の事業費に充当することとした旨説明があった。

以上により、本議案は了承され、評議員会に諮ることとした。

第6号議案 平成13年度事業計画および収支予算(案)について

近藤庶務担当理事から平成13年度事業計画について資料に基づき例年の事業のほか、次のような説明があった。

- 会員名簿の発行、学会機関誌の判型、内容、発刊方法等を検討するため会誌検討委員会を再開する。
- 委員会活動をより活性化することとし、感染症対策委員会の再開を検討する。
- 第11回役員選挙の準備事務を行う。

会計担当理事から平成13年度収支予算について

資料に基づき説明があった。

- 60回総会の記念事業分として総会負担金を増加(1,000,000円)し、また、委員会活動をより充実するため調査活動費を(1,000,000円)増加した。
- 奨励事業費は前年度どおりとした。

以上により、本議案は了承され、評議員会に諮ることとした。

第7号議案 奨励賞について

鈴木学会長(奨励賞選考委員長)から平成12年度の奨励賞選考結果について詳細な説明があった。

多田羅理事長から今年度の奨励賞については、選考委員会の結果を踏まえ、本理事会においてご了承いただきたいとの提案があり、了承された。また、今年度は予算に余裕があるので、奨励賞の副賞等について検討することとし、本件は学会長、理事長、庶務担当理事に一任することとした。

受賞者は次のとおりである。

1. 津久井智 各種指標を用いた糖尿病スクリーニング法の有用性と糖尿病危険因子が及ぼす影響に関する研究
2. 三徳和子 調査研究をベースにした保健婦活動
3. 長田 斉 成人の口腔保健指標としての現在歯のパーセントイル値について
4. 麻原きよみ 保健婦活動の意義の明確化と活性化に関する実証的研究

第8号議案 名誉会員について

北川名誉会員担当理事から平成12年度の名誉会員候補者として推薦する方々の紹介がなされ、審議した結果、次の方々を理事会において推薦し、評議員会、総会に諮ることとした。

岡田 晃氏 前田和甫氏 三浦 創氏
伊藤秀夫氏 松崎奈々子氏

また、北川理事から現行の規定の基準を見直すことについて提案があったので、本件については理事長、庶務担当理事、学術担当理事、名誉会員担当理事で協議することとした。

第9号議案 その他

1. 喫煙対策についての対応

多田羅理事長から前回の理事会、地域保健委員会において検討した「喫煙対策に関する意見声明」については、全評議員に意見を求め、その結果を参考にして資料のとおりとりまとめたとの報告があり、学会機関誌に掲載するとともに関係機関に送付することとした。

2. 中富健康科学振興財団からの研究者顕彰の推薦について

近藤庶務担当理事から中富健康科学振興財団からの研究者顕彰の推薦について説明があり、候補者を推薦する者は理事長に申し出るように依頼があった。

3. 日本学術会議予防医学研究連絡委員会報告の機関誌への掲載について

近藤庶務担当理事から日本学術会議予防医学連絡委員会が、報告としてまとめた「次世代の健康問題と予防医学の将来展望」について報告があり、学会機関誌に掲載できないかとの申し出があった。

この件については編集委員会において検討することとして、嶋本 喬編集担当理事に一任された。

報告事項

1 委員会報告

1) 編集委員会報告

嶋本編集担当理事から次のような報告があった。

- 平成11年度の投稿掲載状況について、投稿原稿が134編あり、投稿から掲載までの期間がかなり長くなった。投稿から掲載までに1年以上かかる原稿が30%強あり、それらの原稿は著者へ書き直しを依頼してから再投稿までかなりの時間がかかっている。

- 学会機関誌に掲載された論文と同一と思われるような論文が同一の著者名で他学会機関誌に掲載されたことについて、編集委員会において検討した上、本学会の編集委員長、副編集委員長、他学会の編集委員長、副編集委員長の4人が当該著者に会い、事実確認をした。本編集委員会としては厳重注意の文書を当該著者に送り、編集後記にて会員に注意を促すことにした。

- 二重投稿を防ぐうえからも投稿原稿のカバーレターに、未発表の論文でどこにも投稿していないことを明記する旨、投稿規定に記載することを

検討している。

2) 公衆衛生人材委員会

二塚 信委員長から5月13日開催の委員会について報告があった。

(詳細については委員会報告を参照のこと)

また、公衆衛生専門職に必要な資質については、委員長の案に対し8月中旬までに各理事から意見を聴くことになった。

平野かよ子委員から「保健婦の養成のあり方の現状と課題」について説明があり、これに対して二塚委員長から基礎教育の中で必要な保健婦教育のあり方、保健婦の大学院教育のあり方、卒後の現任教育訓練のあり方を中心に検討することとし、公衆衛生看護のあり方検討委員会(仮称)を発足させたい旨提案があり、了承された。同委員会は来年度を待たずに今年度から活動することとし、詳細については8月30日開催の公衆衛生人材委員会において検討することとし、委員の選任等については委員長、理事長に一任された。

3) 地域保健委員会報告

阿彦忠之委員長から6月26日開催委員会の報告があった。

(詳細については委員会報告を参照のこと)

健康日本21の地方計画を推進するための指標を選定し、また、各指標に関する地域の実状を把握するための住民アンケートが必要な項目については、8月中を目途にまとめ結果を保健所に還元することとした。

4) 感染症対策委員会報告

角田文男委員長欠席のため、理事長から学会機関誌に掲載された別刷について紹介があった。今後の活動については角田委員長と相談し、進めていくこととした。

2 「個人情報保護基本法」制定について

多田羅理事長から意見書を高度情報通信社会推進本部個人情報保護法制化専門委員会委員長に提出した旨報告があった。また、この意見書の原案を作成した中川秀昭理事に今後とも「個人情報保護基本法」の担当になっていただきたいとの依頼があり、了承された。

前田光哉氏(厚生省大臣官房政策課)から最近の動きと中間整理、中間整理に対する厚生省の意見等についての説明があった。

3 第18期日本学術会議会員の選出について

相澤好治学術担当理事から、第18期日本学術会議会員として本学会から推薦していた角田文男理事（環境保健学）、田中平三理事（予防医学）が日本学術会議会員推薦管理会より会員として推薦された旨報告があった。

4 その他

1) 後援について

近藤庶務担当理事から全国精神障害者家族会連合会より、第33回全国精神障害者家族大会（静岡大会）の後援依頼があり、了承した旨報告があった。

2) 名誉会員について

近藤庶務担当理事から名誉会員の幸 康一先生

が1月17日に、山本宜正先生が7月1日に、五十嵐義明先生が7月13日に逝去された旨報告があった。

3) 英国王立内科医学会の会員

近藤庶務担当理事からこの度、多田羅理事長が英国ロンドン王立内科医学会の特別会員になれば、これは重松逸造先生、中島 宏先生につぐものである旨報告があった。

4) 次回理事会は10月17日11時からグリーンルーム前橋で開催する。

以上で議事を終了し、多田羅理事長が閉会を宣した。

第1回国際 QOL 学会環太平洋集会 (International Society for Quality of Life Research (ISOQOL), Pan-Pacific Conference) のご案内

会期：2001年4月13日（金）～15日（日）

会場：東京都市センターホテル

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1

学会長：福原 俊一（京都大学大学院医学系研究科教授）

黒川 清（東海大学医学部長）

メインテーマ：Taking QOL research into the new millennium

会議用語：英語

事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂 9-5-24 赤坂日本ビル

（株）コンペンションリンケージ

電話 03-5770-5531 ファックス 03-5770-5532

E-mail：qol@c-linkage.co.jp

Home page：http://www.c-linkage.co.jp/qol/

一般演題募集〆切り：2000年11月30日

（英文校正を希望される方は10月31日〆切り、校正料7000円）